

○「質疑応答」

質問

県の建築住宅課の成田と申します。

伊香賀先生に 1 つ質問、教えていただきたいことがございます。

レジュメでいいますと 34 コマになるんでしょうか、知識創造についてのキャスビーにつきまして、来年度、解禁になるというお話を承りました。それに先駆けて、この場でもし、フライングになるのかもしれませんが、耳寄りな情報がいただけるものであれば嬉しいなと思います。

何故、そのように考えたかと言いますと、健康増進のキャスビーの中で、貧富に関わらず健康と住宅は関係があるというお話をいただきました。とすると、知識創造の点で勉強しなくても頭が良くなる学校、やる気がなくても仕事ができるオフィスというものができないのではないかと。そのためには、この知識創造で今、研究されている評価項目といったところに設計のヒントなり、運営のヒントなりといったものがあるのではないかというふうに期待してしまいました。そのへんのところをよろしくお願ひしたいと思います。

回答

伊香賀氏

勉強に集中したくなる教室とか、仕事がばりばりやりたくなるオフィスとか、というための指針というか、評価の仕方ということを目指しておりまして、そういう意味では、期待に応えられず、お話とは若干ずれがあるかもしれません。

例えば、学校ですが、学校の中でも特に小中学校、高等学校という話もありますが、夏暑すぎて、普通教室に冷房がないのは、漸く東京都の都立高校で冷房化が進んだりしていますが、やはり暑過ぎる環境だと集中力、授業にも集中できなくて、それが学力低下につながったりします。

やりたいということを施設側での工夫でできるのであれば、冷房を入れなくても、少なくとも日除けとか、最低限の屋根の断熱とか、見直す点が沢山ありそうです。

それに気付くための評価のシステムを実は知的生産性の中で、気付くようにというものを目指している。ただ単に暑い、寒いというだけではなくて、実は建築の空間構成の工夫、実は現行のキャスビーでは、例えば、インフォーマルといいますか、典型的な会議のためのスペースというのではなくて、いろんな違う部署の人が、自然にコミュニケーションがとれるような建築の計画ということが、今、いろいろ国内でも注目をされています。なかなか評価に結び付いてこなく、キャスビーにも今のところ入っていませんが、そういうものに少し評価を拡張して、キャスビーに取り組もうということで、スライドの 38 の表の左端にキャスビ

一という列があります。「Q」の幾つという番号がついていないプラスアルファの「打ち合わせスペース」、「食堂・カフェ」、「移動空間の工夫」、「エントランスロビー」がありますが、これを、これまでのいろんな調査の結果や被験者実験というようなものの結果を反映させながら、現状のキャスビーのデータを若干補充する形でやると、どのぐらい、単純な作業の効率が上がるかということと、いろんな良いアイデアがひらめくような工夫を拾えるのかということについて、若干意欲的になるといいますか内容があるので、今、精査をしているところであります。

そんなところで答えになっていますでしょうか。

成田

はい、ありがとうございました。